

第 54 回 国立大学図書館協会総会ワークショップ C 議事要旨

日 時：平成 19 年 6 月 28 日(木) 13:00-16:00
会 場：JAL リゾート シーホーク福岡 ナビス B
テ ー マ：機関リポジトリの運営・推進について
司 会：細江 文利（東京学芸大学附属図書館長）
司会補助：青木利根男（東京学芸大学附属図書館学術情報部長）
記 録：藏野由美子（東京大学附属図書館情報サービス課長）

1. はじめに

司会の細江館長から開催趣旨について説明があった。

機関リポジトリは、大学がその教育研究活動を社会へ説明する責任を果たすための有効な手段であるとともに、オープンアクセス環境実現の面からも期待されている。しかし、各会員館における機関リポジトリの進捗状況には差があり、推進にあたっての課題も多い。そこで、機関リポジトリのさらなる推進に当たり、現状を再確認すると共に先行事例について意見交換を行い、各会員館における課題解決の一助とするため、本ワークショップを開催する。

2. 講演：機関リポジトリの現状について

尾城 孝一（国立情報学研究所学術基盤推進部コンテンツ課長）

CSI 事業を中心に現状報告があり、以下のような意見交換があった。

- ・機関リポジトリの整備目標、目途については、次世代の基盤整備に関わる大きな構想の一部として考える必要がある。
- ・学術情報流通の価格モデルやビジネスモデルについては、世の中の状況変化に応じて変わっていくものであり、先入観を持たずに対処していく必要がある。
- ・機関リポジトリは、紀要類を電子出版する際のプラットフォームとしても使うことができる。

3. 事例報告 1)

長友 恒人（奈良教育大学学術情報研究センター長）

機関リポジトリ (NEAR) 構築に際し、大学の中期計画の中に組み込んで大学全体の課題として位置付けることと、機動的な実働部隊を組織することを真っ先に行った。また、教授会は教員全員参加であり、教授会における広報を常に心がけている。

4. 事例報告 2)

野村 彰夫（信州大学附属図書館長、広報・情報担当・国際交流担当理事）

信州大学ではトップダウンによる短期決戦で機関リポジトリシステム構築を行った。縦割り組織の弊害を排除し、機関リポジトリ・研究者総覧・教員評価の3つを集約するプロ

ジェクトを立ち上げ、それぞれがリンクし合う信州大学学術情報オンラインシステム (SOAR) を構築した。

5. 事例報告 3)

羽入佐和子 (お茶の水女子大学附属図書館長)

茂出木理子 (お茶の水女子大学附属図書館図書・情報チームリーダー)

お茶の水女子大学では、小規模大学ならではの全員体制による対外・学内アピールを多面的に展開し、機関リポジトリ (TeaPot) の認知度を高めるための活動を行った。

また、機関リポジトリの導入は新たな課題であるため、業務のバランスに配慮すると共に、図書館全体の再生・活性化の契機として位置付けた。

6. ディスカッション

東京学芸大学から、図書館の教育情報ポータルサイト (E-TOPIA) の中に組み込んだかたちでの機関リポジトリ構築の事例が追加で報告された後、全体を通して以下の意見交換があった。

- ・業績 DB と機関リポジトリとの連携に関して、それぞれのシステムへのデータ入力は One Click で済むような工夫が必須である。また評価に関わることになる点については、論文の公開・非公開などを教員が判断できるようにするなど、配慮が必要。

- ・雑誌論文の掲載許諾について、海外の出版社の対応状況はかなり整理されてきているが、国内では対応検討中の学協会が多い。

NII の ELS では、一括して許諾する方向で準備を進めている。

- ・著作権に関して注意が必要なものとしては、美術・デザインの権利に関わるような画像・図版や、内容が発明・特許に関わるものがある。その他、剽窃等の研究倫理に関わるものなど、慎重な扱いを要するケースもある。

7. まとめ

最後に司会の細江館長がワークショップ C 全体について総括し、閉会の後、以下のとおり国大図協事務局に成果を報告した。報告内容は、ワークショップに続いて開催された全体会議 (総まとめ) の席上で事務局から紹介された。

ワークショップ C の成果として、以下の共通認識を得ることができた。

- (1) 機関リポジトリの構築には、大学の規模には関わりなく、関係者の前向きな意欲が重要。
- (2) 課題としては、著作権の問題がある。大学も、学協会もその対応に苦慮しているが、筑波大学が許諾条件に関する情報を整理して提供するなど、改善に向けた取組は行われている。
- (3) 今後は機関リポジトリへの登録件数を増やすことで、社会的な認知も高まっていくものと期待される。

以上